

ある日の育児日記から

(48)

佐藤 和代



有は二歳半になりました。このごろは、圭の友だちが遊びにくると、ままごとの仲間入り。それも今までは「赤ちゃん」か「犬・猫」役に甘んじていたのに、最近「お父さん」に昇格。「お父さん」と呼ばれて「おし、ここだよ!」なんて答えているのを聞くと、私は隣の部屋でひっそり返って笑っていたりします。

圭と有の二人で、押し入れにはいってごっこ遊びをすることもふえました。台所で家事をするふりをしてながら聞き耳をたてるのが、私の楽しみ。お姫さまになったり、看護婦さんになったり、ア

ニメのヒーロー・ヒロインになったり。聞いている私にも、小さい頃押し入れにこもって空想にふけた、あの幸せな気分がもどってきます。「押し入れから飛び降りないのよ!」なんてマジメな声で言いつつ、顔はしっかりゆるんでいたたりしてね。

かくして、ごっこ遊びには甘い私。以前着ていたパーティドレスは縫い直して圭のお姫さまドレスに。レースの手袋やショールも譲り、ヒーロー変身グッズも買いました。

子どもたちは、いつまでこんなごっこ遊びを聞かせてくれるかな。そう思うと二歳と五歳のこの時期が、とてもいとおしく思えてしかたないのです。



圭、看護婦のこと「かんごく」と呼ぶだけにはヤメ!